

■活動レポート

東日本大震災による被災文化財等救援状況

——平成23年度の活動を通して——

1. はじめに

平成23年3月11日午後2時46分、わが国観測史上最大の東北地方太平洋沖地震が発生し、その後に東日本の太平洋沿岸一帯を大津波が襲いました。海岸から最大約6km内陸まで浸水し、岩手県宮古市では明治29年三陸地震津波を上回る最大潮上高40.5mを記録しました。巨大地震と大津波、その後の余震が引き起こした東日本大震災の傷跡は余りに深く、震源域に近い東北地方の太平洋沿岸では尊い生命と財産が失われました。岩手県の太平洋沿岸でも同様で、この地域に伝わる貴重な文化遺産および自然遺産、そして数多くの博物館および関連施設も壊滅的被害を受けました。

岩手県立博物館では岩手県陸前高田市教育委員会の要請を受け岩手県教育委員会主導のもと、同市立図書館所蔵資料を救出いたしました。その後、東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会(以下、被災文化財等救援委員会)の支援を得、岩手県沿岸部に立地する博物館関連施設、市町村教育委員会が所管する学術資料の救援活動を行いました。ここでは平成23年度の活動状況を紹介いたします。

2. 救援活動の開始

平成23年3月30日、岩手県陸前高田市立図書館特別書庫に収蔵されていた岩手県指定文化財吉田家文書および関係資料の救出要請が出され、4月2日および3日の両日、岩手県教育委員会、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、一関市博物館、および陸前高田市の職員と共に、被災した古文書、絵図、軸物等を救出しました。

巨大地震発生直後東北一帯は大規模停電に見舞われ、岩手県立博物館内の点検・復旧に10日以上要しました。復旧作業と並行し、沿岸部の博物館および関連



陸前高田市立図書館での救出活動

施設の被災状況に関する情報収集に努めました。断水、通信網や交通網の遮断、および製油所の被災に起因するガソリン不足が重なり、3月下旬まで身動きが取れず、その被災状況を正確に把握することがきわめて困難な状況に置かれました。震災後3週間が経過していたとはいえ、上記の状況をふまえれば、早期の救援活動開始であったと思います。

3. 救出資料受け入れと活動の到達点

救出された資料を岩手県立博物館内に受け入れるに当たり最初に検討したことは、搬入資料の一次保管場所についてです。運び込まれる資料には多量の塩分が含有され、土砂やヘドロをはじめとする様々な物質の固着が予想されました。カビが発生、繁殖による腐朽の進行も懸念されました。搬入資料の腐朽進行を抑制し、博物館施設内環境汚染を防止するため、館内空調システムから遮断され、外気とほぼ同じ温度環境下にある車庫に救出資料を搬入し、一次保管することとしました。また、洗浄・脱塩をはじめとする一連の処置は、収蔵庫および展示場とは空調系統が別の、車庫に併設する荷解場と給排水設備のある実技室での実施を決め、処置に必要な用具類の準備を進めました。

次に、当面の救援活動の到達点をどこに置くか、その点について検討しました。これまでの経験に基づけば、被災資料を救出し、危険な場所から安全な場所に速



陸前高田市立博物館での民具の救出

やかに移した後、抜本的修理を施すことができる環境が整うまで保管する、というのが救援活動の基本的な考え方です。しかしながら、今回救出された資料はそのほとんどが海水損しているため、安全な場所への移動だけでは、急激な乾燥による変形やカビの繁殖による腐朽を防ぐことはできません。岩手県立博物館では、塩分やヘドロといった資料劣化および展示・収蔵環境汚染につながる物質を可能な限り取り除くこと、そして一連の処置後一定の経過観察期間を設け、資料に顕著な変化がみられず長期にわたる安定的保管が可能な状態であることが確認されるまでを、救援活動の到達点としました。

4. 救援活動の推移

陸前高田市立図書館における被災資料救出完了後、陸前高田市海と貝のミュージアムおよび市立博物館の被災資料救出に着手しました。2施設の被災資料は合計31万点以上に上ります。すべてを搬出し仮収蔵施設に移動するのに、1.5ヶ月余りを要しました。この間、沿岸部の被災状況も少しずつ明らかになり、被災資



古文書の真空凍結乾燥処理

表1 岩手県立博物館における主な被災文化財等の救援状況（平成24年3月31日）

市町村	機関・施設	資材	措置内容
陸前高田市	(1)市立図書館	岩手県指定文化財吉田家文書および関連資料等	救出、安定化処理
	(2)海と貝のミュージアム	貝類標本 ツチクジラ剥製標本	救出、安定化処理 救出
	(3)市立博物館	民俗資料（国登録漁撈具等）、考古資料、歴史資料、民俗資料、生物資料、地質資料、絵画関係資料等	救出、安定化処理および保管場所の保存環境改善等
	(4)埋蔵文化財整理室	土器	救出、安定化処理
	(5)教育委員会	岩手県指定文化財吉田家住宅	建築部材の収集と保管
	(6)教育委員会	絵画、水墨画、水彩画	乾燥、燻蒸
大船渡市	(7)教育委員会	絵画	安定化処理
釜石市	(8)教育委員会	古文書、軸物	安定化処理
	(9)教育委員会	民具	収蔵庫内および収蔵資料洗浄
大槌町	(10)教育委員会	絵画および古文書	安定化処理
		土器	救出
山田町	(11)山田町	海漂標本	安定化処理のための技術指導および一部保管
	(12)教育委員会	古文書および書類類	安定化処理
宮古市	(13)市役所	絵画	乾燥、燻蒸
	(14)市民文化会館	絵画	乾燥、燻蒸
	(15)教育委員会	盛合家調度品	乾燥、燻蒸

*上記資料の救出および安定化処理に当たっては、被災文化財等救援委員会、大学、都道府県市町村教育委員会、博物館関係機関をはじめとする多くの機関および全国のボランティアの方々からの人的および物的支援を受け実施している。

料を所管する市町村教育委員会から、海水損した資料の措置方法に関する技術照会を受ける日々が続きました。

救援活動開始後しばらくの間は個別に対応していましたが、情報の一元化と救援活動を組織的、効率的に進めるため、外部からの支援要請の窓口を岩手県教育委員会生涯学習文化課に一元化しました。生涯学習文化課に出された要請を精査

し、岩手県立博物館単独で実施するものと、被災文化財等救援委員会に支援要請するものとに分けて対応いたしました。平成23年度岩手県立博物館が実施した主な救援活動は表1に示すとおりです。

5. 救援活動に寄せられた多くの支援

平成23年度岩手県立博物館には、9万点を超える被災資料が搬入されました。

岩手大学教育学部および盛岡大学文学部の理解を得、延べ200名を超える学生ボランティアの方々に、平成23年4月から約1ヶ月間処理作業に従事していただきました。その後、一連の活動がマスメディアに取り上げられるに従い、社会人の方々の協力も得られるようになりました。

被災資料の長期保管を可能にする大型冷凍庫をはじめ、処理に必要な様々な資材も多くの機関から無償提供していただき、同時に様々な形で有益な助言も多数頂戴しました。このように多くの方々に支えられ、平成23年度は4万5千点以上を処理することができました。

岩手県立博物館には未だ処理を待つ4万5千点余りの資料が保管されています。被災地には一刻も早い処理を必要とする、膨大な資料が収蔵されています。平成24年度も関係機関と連携を図りながら、博物館資料としての再生を目指し、1点でも多く処理して行きたいと考えています。昨年度同様、暖かいご支援をお願いいたします。

（学芸第二課長 赤沼英男）

平成24年度の人事異動

転入（ ）内は前職等

館長 中山 敏（特命参事兼県立学校人事課長）／副館長 朝倉育郎（県教育委員会事務局教職員課厚生福利担当課長）／総務課長 佐々木 仁志（県総務部総務事務センター主幹兼職員福祉担当課長）／総務課主任主査 関 成雄（県民会館事業課主任主査）／専門学芸調査員 笠原 雅史（県立水沢高等学校教諭）／学芸調査員 川又 晋（埋蔵文化財センター文化財調査員）／解説員 齋藤 未来（新採用）／総務事務員 阿部 志穂（新採用）／期限付職員 田上 由紀恵、山崎 志穂、柏崎 結香（新採用）

転出（ ）は異動先等

館長 菊池 慧（退職）／副館長 佐々木一成（県教

育委員会事務局生涯学習文化課特命参事兼文化財課長兼埋蔵文化財センター副所長）／総務室長兼総務課長 佐々木景一（任期満了）／専門学芸調査員 木戸脇 直（県立高田高等学校教諭）／専門学芸調査員 原田 祐参（盛岡市立高等学校教諭）／総務課主事 松尾 健生（県民会館事業課主事）／解説員 高橋友佳子（任期満了）／総務事務員 伊藤夏恵（任期満了）期限付職員 田村奈緒子、大森祐弥、佐々木聖実（任期満了）

昇任

学芸部長 大石雅之（首席専門学芸員兼学芸第一課長）
学芸第三課長 齋藤邦雄（上席専門学芸員）

配置換え

学芸第一課長 藤井忠志（学芸第三課長）